

氏名	淵上 ラファエル 広志
ヨミガナ	フチガミ ラファエル ヒロシ
学位の種類	博士（音楽教育学）
学位記番号	博第 11 号
学位授与年月日	2020 年 3 月 7 日
学位論文題目	ブラジルにおけるジャポネジダデス形成としての尺八学習
博士論文審査委員会	(主査) 准教授 福田 裕美 (音楽教育学) (副査) 教授 渡辺 裕 (音楽教育学) (副査) 客員教授 加藤 富美子 (音楽教育学) (副査) 准教授 下道 郁子 (音楽教育学) (副査) 教授 坂崎 則子 (音楽学) (副査) 准教授 原田 敬子 (作曲) (副査) 徳丸 吉彦 (民族音楽学、音楽記号学) (聖徳大学教授)

## 審査結果の要旨

### 1. 博士論文審査委員会

日 時	2020年2月13日(木) 10時00分～12時30分
場 所	東京音楽大学 池袋キャンパス A301
判 定	合格
審査結果の要旨	<p>本論文は、ブラジルにおける尺八愛好家の尺八学習の構造ならびに、学習者にとっての尺八学習の意味の変容を、尺八音楽を演奏することによって産み出されるジャポネジダデス形成の観点から論じたものである。ジャポネジダデスとは、「日本人」的な活動や経験を活発化させることによって、その行動規範や考え方が「日本」及び「日本人」としてのイメージを作っていくことをとらえる文化人類学の概念であり、ジャポネジダデス形成をとらえるにあたっては、日系社会、ブラジル社会の環境における日系人・非日系人の相互作用のプロセスをとらえることが欠かせないとされている。</p> <p>ジャポネジダデス形成と尺八学習の関わりを、長期間にわたる参与観察ならびにインタビューでとらえた日系人・非日系人の尺八学習に関するエスノグラフィー、ならびに、日系とイタリア系のハーフのブラジル人である自身のオートエスノグラフィーからとらえた本研究は、以下のような研究成果をもたらした点において高く評価できるものである。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ジャポネジダデスの概念を用いたことにより、個人が異文化音楽に接触し、それを吸収する過程が、民族性だけでは説明がつかないことを明らかにした。</li><li>・数々のフィールドワークで、複数の人間の生きた言葉から、現代のブラジルにおける尺八学習の意味を実証できた。</li><li>・オートエスノグラフィーという手法によって、申請者自身の振る舞いやそこでの認識自体を反省的に捉え返す契機が確保され、それがブラジルにおける「日本文化」構築のプロセスも含めて捉え返す上で有効に機能した。</li><li>・ブラジルにおける尺八の歴史についての記述は、海外における日本音楽史として、有益な記述となった。</li><li>・音楽教育では、音楽を「人間の活動」としてとらえることの必要性を実証的に示した。</li><li>・音楽教育学における二重音楽性bi-musicality や多音楽能力intermusability についても、情報を提供するものとなった。</li><li>・オートエスノグラフィーの方法を音楽教育研究のさまざまな分野に適用する可能性を示唆し、それが音楽教育研究を深める期待を示すことができた。</li><li>・音楽教育研究として、多文化社会における音楽性の形成過程の研究に新しい視点をもたらすことができた。</li></ul> <p>以上より、本論文は博士(音楽教育学)の学位を授与するにふさわしいと判断する。</p> <p>なお、次のような課題も指摘され、今後の研究に生かすべきだとされた。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・尺八の学習プロセスの調査分析をとおして、「音楽を学習する」という行為とジャポネジダデス形成の関係性がより浮かび上がる研究へと発展させること。</li><li>・さまざまな文化のアイデンティティ形成やその変容を論じた個別の研究成果が数多く生まれている。これらの研究成果をより積極的に取り入れることで、様々な現象をもっと構造化して捉えること。</li></ul>

以上